

## 60年代以降の日本の対中貿易品目 の変遷（その2～輸入）

中村 江里子 Eriko Nakamura

（財）国際貿易投資研究所 客員研究員

前回（季刊第65号）では60年代以降、40年余にわたる日本の対中貿易品目に関し、輸出品目の変遷について取り上げた。今回は輸入品目について輸出と同様に「標準国際商品分類」（SITC）（注1）を用いてその変遷を観察する。

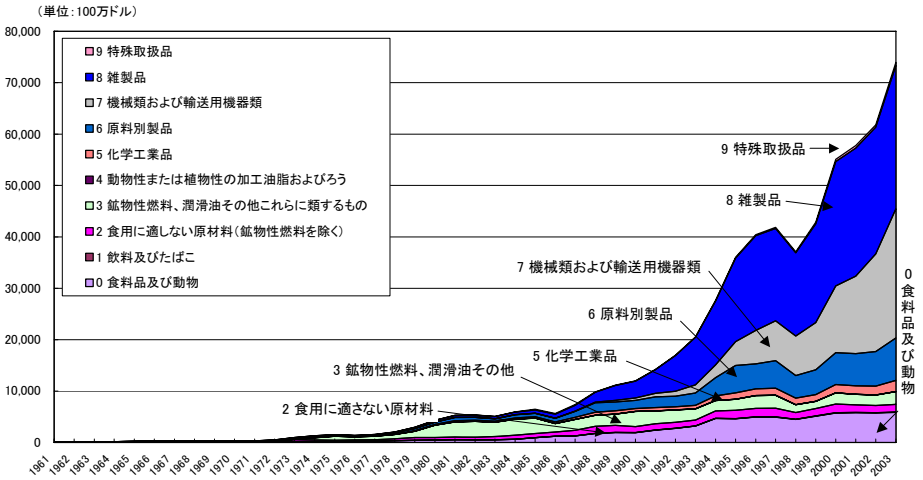
日本の対中輸入についてまず概要をみると、中国からの総輸入額は62年の4,600万ドルから2003年には約1,600倍の739億ドルと、この間の日本の輸入総額の拡大幅（約67倍）をはるかに凌ぐ。2時点間の国別輸入額の拡大倍率の比較では111カ国中5番目であったが、上位の国々は62年時点の輸入額がいずれも100万ドル未満と少額であり、実質的には輸出同様に中国の拡大倍率が最も高いと考えられよう（注2）。

輸入規模が100億ドル台に入ったのは輸出よりも一足早い89年であ

り、輸出同様に90年代以降に著増している（図表1）。2003年以降もその拡大傾向に衰えは見えず、2005年には日本の輸入相手国としては初めて1,000億ドル超を記録、2006年も前年を上回る勢いで拡大の一途を辿っている。なお中国は2002年より米国を抜いて日本の最大の輸入相手国である。

品目の流れを大分類（SITC 1桁ベース）でみると、60年代は木材や繊維などの非食用原材料〔鉱物性燃料除く〕（2類）が約4割、食料品および動物（0類）が約3割であったが、

図表 1 日本の対中国輸入額の推移（1962-2003年）



(注) SITC 1桁ベース

(資料) International Trade by Commodities Statistics, CD-ROM (OECD)

70年代にはそれぞれシェアが半減し、代わって鉱物性燃料のシェアが70~80年代には3~4割と最大となった。90年代以降は様相が一変し、バッグや靴、アパレルなどの雑製品

(8類)のシェアが4割超を占め、さらに2000年代は60年代にはシェアが1%にも満たなかった機械類および輸送用機器類(7類、以下、機械機器類)が3割近くにまで急伸した(図表2)。

図表 2 日本の対中輸入 品目別シェアの推移 (SITC1桁ベース)

(単位:%)

|                         | 62-69年 | 70-79年 | 80-89年 | 90-99年 | 00-03年 |
|-------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 0 食料品及び動物               | 31.8   | 16.7   | 14.6   | 13.5   | 9.3    |
| 1 飲料及びたばこ               | 0.0    | 0.3    | 0.2    | 0.1    | 0.1    |
| 2 食用に適さない原材料(鉱物性燃料を除く)  | 42.6   | 21.7   | 12.6   | 4.8    | 2.4    |
| 3 鉱物性燃料、潤滑油その他これらに類するもの | 3.9    | 35.7   | 38.3   | 7.6    | 3.5    |
| 4 動物性または植物性の加工油脂およびろう   | 0.9    | 0.5    | 0.2    | 0.0    | 0.0    |
| 5 化学工業品                 | 3.6    | 3.8    | 4.9    | 3.4    | 2.9    |
| 6 原料別製品                 | 12.2   | 12.4   | 13.0   | 12.6   | 11.0   |
| 7 機械類および輸送用機器類          | 0.1    | 0.1    | 0.9    | 14.5   | 29.0   |
| 8 雑製品                   | 4.6    | 8.4    | 14.2   | 43.0   | 40.9   |
| 9 特殊取扱品                 | 0.2    | 0.4    | 1.1    | 0.5    | 0.8    |
| 0-9 合計                  | 100.0  | 100.0  | 100.0  | 100.0  | 100.0  |

(資料)図表1に同じ

この90年代以降の劇的な変化は製品輸入比率からも観察できる(注3)。日本は基本的には資源輸入国であるため製品輸入比率はそれほど高くなく80年代半ばまでは50%を切っていたが、85年のプラザ合意以降は製品輸入が促進され、製品輸入比率は6割余へと上昇している。

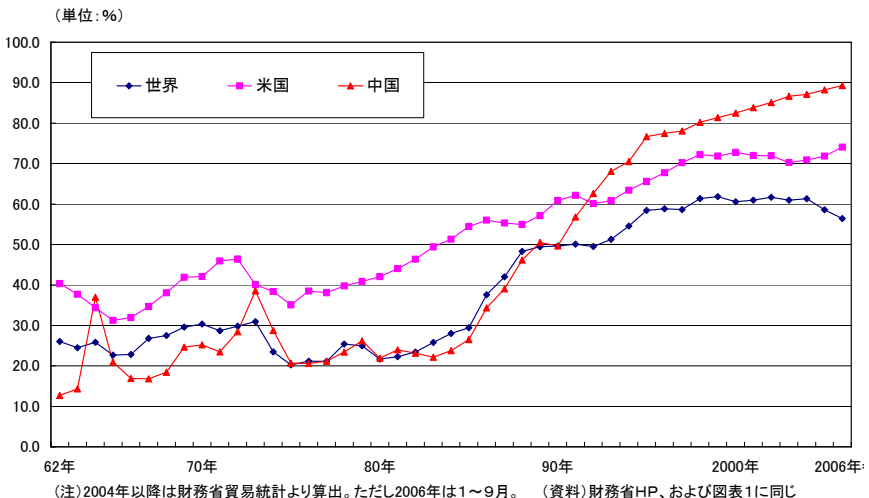
かつて日本の最大の輸入相手国であった米国からの製品輸入比率を見ると、比率そのものは対世界に比べて10～20%程高いが、傾向としては60年代以降、一貫して対世界と同じである。一方中国からの製品輸入比率は、80年代後半にかけて一部の年

を除いて対世界を下回るかほぼ同じという水準であった。しかし91年に対世界を上回ってからは急上昇を見せ、92年には米国をも上回り現在では9割に迫る勢いを見せるなど、この40年間でドラスチックな変化を遂げている(図表3)。

### ＜食料関連や原材料が主流の60～70年代＞

次に小分類で輸入上位10品目を見ると、まず62年では輸入品目の1位は「軟らかい固形植物油用の種子他」で対中輸入総額の4割弱と圧倒的なシェアを占める(図表4)。次い

図表3 日本の製品輸入比率の推移



で「その他の鉱物」、「石炭・亜炭・泥炭」と続く。トップ品目の“正体”は大豆であり、62年の日本の非食用の大豆輸入において中国は米国に次いで2位であった(注4)。「その他の鉱物」は岩塩などの塩が主流である。

4位、5位には「果実、ナッツ」、「甲殻類および軟体動物」と食料関連が並び、9位にも「野菜、根茎類」が入っている。上位10品目のうち、製品類とされるのは6位の「すず」のみであるが、すずの輸入形態はほ

図表4 日本の対中国輸入 輸入額上位10品目(1962年～2003年)  
SITC3桁ベース

(単位:100万ドル、%)

|    |                        | 1962年  |                        | 1970年  |      |
|----|------------------------|--------|------------------------|--------|------|
|    |                        | 対中輸入総額 | 46                     | 対中輸入総額 | 254  |
| 1  | 222 種子他(軟らかい固形植物油用)    | 17     | 222 種子他(軟らかい固形植物油用)    | 39     |      |
| 2  | 278 その他の鉱物             | 4      | 261 絹                  | 27     |      |
| 3  | 322 石炭、亜炭(木質)、泥炭       | 2      | 036 甲殻類および軟体動物(生鮮、冷凍他) | 20     |      |
| 4  | 057 果実、ナッツ(生鮮、乾燥)      | 2      | 278 その他の鉱物             | 19     |      |
| 5  | 036 甲殻類および軟体動物(生鮮、冷凍他) | 2      | 598 その他の混成の化学工業製品      | 15     |      |
| 6  | 687 すず                 | 2      | 057 果実、ナッツ(生鮮、乾燥)      | 12     |      |
| 7  | 424 その他の植物性油脂          | 2      | 054 野菜、根茎類他            | 9      |      |
| 8  | 268 羊毛(トップ除く)、その他の獣毛   | 2      | 654 その他の繊維織物           | 8      |      |
| 9  | 054 野菜、根茎類他            | 2      | 268 羊毛(トップ除く)、その他の獣毛   | 7      |      |
| 10 | 292 その他の植物性原材料         | 2      | 291 その他の動物性原材料         | 7      |      |
|    |                        | 82.4   | 対中輸入総額に占めるトップ10品目のシェア  |        | 63.8 |

|    |                        | 1980年  |                          | 1990年  |        |
|----|------------------------|--------|--------------------------|--------|--------|
|    |                        | 対中輸入総額 | 4,323                    | 対中輸入総額 | 11,997 |
| 1  | 333 原油                 | 1,952  | 333 原油                   | 2,233  |        |
| 2  | 334 石油製品(精製したもの)       | 283    | 843 女性用コート類(メリヤス編他除く)    | 618    |        |
| 3  | 036 甲殻類および軟体動物(生鮮、冷凍他) | 152    | 845 コート類および衣類付属品(メリヤス編他) | 562    |        |
| 4  | 322 石炭、亜炭(木質)、泥炭       | 117    | 842 男性用コート類(メリヤス編他除く)    | 530    |        |
| 5  | 278 その他の鉱物             | 99     | 036 甲殻類および軟体動物(生鮮、冷凍他)   | 465    |        |
| 6  | 261 絹                  | 94     | 334 石油製品(精製したもの)         | 336    |        |
| 7  | 652 綿織物                | 89     | 322 石炭、亜炭(木質)、泥炭         | 261    |        |
| 8  | 222 種子他(軟らかい固形植物油用)    | 75     | 844 下着類(メリヤス編他除く)        | 237    |        |
| 9  | 842 男性用コート類(メリヤス編他除く)  | 74     | 846 下着類(メリヤス編他)          | 232    |        |
| 10 | 268 羊毛(トップ除く)、その他の獣毛   | 63     | 652 綿織物                  | 226    |        |
|    |                        | 69.3   | 対中輸入総額に占めるトップ10品目のシェア    |        | 47.5   |

|    |                          | 2000年  |                          | 2003年  |        |
|----|--------------------------|--------|--------------------------|--------|--------|
|    |                          | 対中輸入総額 | 55,101                   | 対中輸入総額 | 73,970 |
| 1  | 845 コート類および衣類付属品(メリヤス編他) | 4,172  | 752 自動式データ処理機械           | 6,495  |        |
| 2  | 843 女性用コート類(メリヤス編他除く)    | 3,807  | 845 コート類および衣類付属品(メリヤス編他) | 4,314  |        |
| 3  | 842 男性用コート類(メリヤス編他除く)    | 2,655  | 843 女性用コート類(メリヤス編他除く)    | 4,262  |        |
| 4  | 846 下着類(メリヤス編他)          | 1,910  | 764 その他の通信機器・同部品、付属物     | 3,008  |        |
| 5  | 894 玩具、遊戯用具、運動用具         | 1,819  | 842 男性用コート類(メリヤス編他除く)    | 2,483  |        |
| 6  | 851 履物                   | 1,801  | 894 玩具、遊戯用具、運動用具         | 2,352  |        |
| 7  | 759 事務用機械、コンピュータの付属品と部品  | 1,596  | 759 事務用機械、コンピュータの付属品と部品  | 2,264  |        |
| 8  | 764 その他の通信機器・同部品、付属物     | 1,456  | 846 下着類(メリヤス編他)          | 2,093  |        |
| 9  | 037 魚類、甲殻類、軟体動物(調理済み)    | 1,265  | 851 履物                   | 1,892  |        |
| 10 | 831 旅行用具、ハンドバッグ他         | 1,259  | 821 家具・同部品               | 1,733  |        |
|    |                          | 39.5   | 対中輸入総額に占めるトップ10品目のシェア    |        | 41.8   |

(資料)図表1に同じ

ば全量が管などに成型される前の塊であり、当時の対中輸入は全般的に加工度の低い品目で占められていた状況であった。

70年は首位が「軟らかい固形植物油用の種子他」と62年時点と変わらないが、シェアは15%と半分以下に縮小、2位には「絹」が急浮上しているが、この時はまだ絹織物ではなく生糸の状態で輸入されている。以下、3位には「甲殻類および軟体動物」が62年より順位を上げ、62年に2位であった「その他の鉱物」は4位に順位を落としている。5位には「その他の混成の化学工業製品」と続き、トップ5にようやく製品類が顔を出す。しかし具体的品目としては主として松脂であり、本格的な工業製品とはまだ言い難い。6位以降も「果実、ナッツ」、「野菜、根茎類他」などの食料関連、「その他の繊維織物」（主として短毛・くず絹による織物）、「羊毛、その他の獣毛」、「その他の動物性原材料」などの軽工業品が続く。トップ10圏外だが14位には「女性用コート類(メリヤス編除く)」が入っており、加工度の高い製品類が徐々に増加してきている。

### ＜現在も続く中国主要輸出商品、 繊維製品の台頭：80～90年代＞

80年には62年、70年と全く違い、トップ品目に「原油」が躍り出ている。70年当時には上位20品目はおろか輸入実績さえなく、これだけを見ると唐突な感じを受ける。しかし73年の第1次石油危機を契機に中国からの原油輸入が始まり、その年こそは輸入上位品目の中で7位の実績に留まったものの翌74年からは首位を維持している。2位には「精製した石油製品」、4位には「石炭、亜炭、泥炭」と鉱物性燃料が並ぶ。首位の原油が中国からの輸入総額に占めるシェアは45%と圧倒的で2位以下を大きく引き離している。

このような中でも「甲殻類および軟体動物」は着実に輸入実績を残して3位を維持、5位の「その他の鉱物」、6位の「絹」、8位の「柔らかい固形植物油用の種子他」、10位の「羊毛、その他の獣毛」といずれも70年から順位を落とすつつも上位品目として名を連ねている。新たな品目としては、7位に「綿織物」、9位に「男性用コート類(メリヤス編除く)」と現在でも中国の主要輸出商品

である繊維製品が本格的に登場しはじめた。

90年ではまだ「原油」が首位を維持しているが、輸入総額に占めるシェアは2割を切るまでに縮小した。他のエネルギー関連品目も「精製した石油製品」が6位に、「石油、亜炭、泥炭」が7位に順位を下げた。「原油」はその後、92年まで1位を維持した後、他の品目に押されて徐々に順位を落とし、98年にはトップ10圏外に去った。しかし輸入実績はやや縮小したものの、中国が日本の重要な原油供給元であることに代わりはなく、原油輸入相手国としては87、88年の4位を頂点として2003年まで10位以内に留まった。しかし中国国内のエネルギー需要の増加もあり、2003年以降、輸入は急減した。

その他の品目では、80年までコンスタントに登場していた食品関連は5位に「甲殻類および軟体動物」を残すのみとなり、代わって2~4位に「女性用コート類(メリヤス編除く)」、「コート類および衣類付属品(メリヤス編)」、「男性用コート類(メリヤス編み除く)」が並び、8~10位にも「下着類(メリヤス編除

く)」、「下着類(メリヤス編)」、「綿織物」と、80年に兆しが見えていた中国製アパレルの輸入がここにきて急増した。この背景にはプラザ合意による円高を契機に日本のアパレル関連企業が大挙して中国に進出、日本市場向け製品を生産、輸出しはじめたことがあげられよう。

#### <2000年代以降：機械機器類の登場>

2000年は1位から順に「コート類および衣類付属品(メリヤス編)」、「女性用コート類(メリヤス編除く)」、「男性用コート類(メリヤス編除く)」、「下着類(メリヤス編)」とアパレル関連が上位を独占、また5位の「玩具、遊戯用具、運動用具」、6位の「履物」、10位の「旅行用具、ハンドバッグ他」などの雑貨類も新しく登場している。これらの雑貨類の中にはアパレルのように日系企業の開発輸入によるものもあるであろうが、中国の経済発展と共に生産能力をつけはじめた地場企業が低コスト・大量生産により日本市場に輸出した製品も多くみられる。

一方、エネルギー関連は上位10

品目から姿を消したものの、食料関連では「甲殻類および軟体動物」に代わって「魚類、甲殻類、軟体動物（調理済み）」と、やや加工度の高くなった品目が9位に残った。7、8位には「事務用機械、コンピュータの付属品・部品」、「その他の通信機器・同部品、付属物」と機械機器類が初めて登場する。上位20品目をみても、90年では機械機器類は1品目もなかったが、2000年には11位以下に4品目と計6品目がリストアップされており、機械機器類はこの10年間で主要輸入品目に躍り出た。

さらに2003年をみると、トップに「自動式データ処理機械」が2000年の13位から躍進、他にも「その他の通信機器・同部品、付属物」が4位に、「事務用機械、コンピュータの付属品・部品」が7位に入っている。首位の「自動式データ処理機械」は具体的な品目としてはCPU(中央演算処理装置)があげられる。コンピュータの頭脳とも言えるCPUがトップとなった背景には、増加する一方のIT関連製品への需要と、在中国の外資系企業主導によるものではあるが高度技術集約製品においても中国

が世界の工場としての役割を果たしていることがある。

アパレルでは「コート類および衣類付属品(メリヤス編)」(2位)、「女性用コート類(メリヤス編除く)」(3位)、男性用コート類(メリヤス編除く)」(5位)、「下着類(メリヤス編)」(8位)と相変わらず上位を占め、雑貨類も「玩具、遊戯用具、運動用具」、「履物」、「家具・同製品」がそれぞれ6、9、10位を占め、上位10品目が全て7類、8類の製品類となった。

ここで特筆すべきは、7位の「事務用機械、コンピュータの付属品・部品」である。前回の輸出で見た通り、この品目は2000年、2003年の輸出の上位品目に7位であり、輸出入双方の上位品目にあがっている。輸出では2000年以降の上位品目の特徴として第3番目に機械機器類の中でも品目の変化が見られ、特に部品関連品目が台頭していることを指摘している。同じ観点から輸入を見ると、CPUをコンピュータの部品とみなせば2000年、2003年とも機械機器類の輸入では部品関連品目が上位にあがっていることがわかる。つまり2003年にかけての日中貿易で

は機械機器類は輸出入とも増大したが、それは主に‘部品貿易’であったということである。

以上、輸入品目についても長期にわたって変化を見てきたが、輸出同様に輸入にも大きな変化が見られ、また金額では輸出以上の巨額に増大している。2003年に自動データ処理機械が躍り出たが、現時点でも首位を維持しているとの確信は持てない。それほど近年の中国から輸入は多岐にわたり、IT関連製品のみならず、様々な商品の工場が中国に次々と進出しているからである。

今回は機械機器類における部品貿易について輸出入合わせて詳細を見ていき、日本企業を含めた外資系企業の対中進出との関連について取り上げたい(続)。

(注1) 国連による商品分類、Standard International Trade Classification。現在は85年に発表された改定第3版(Rev.3)が最新であるが、今回は75年に発表された改定第2版(Rev.2)を利用。小分類(3桁ベース)の品目類は約230品目。

(注2) 輸入拡大倍率上位の国々は、1位アイスランド(約38,000倍)、2位モロコシア(約8,600倍)、3位アイルランド(約7,000倍)、4位ハンガリー(約1,700倍)。このうち62年時点で最も輸入額が多額であったのはアイルランドの50万ドルである。

(注3) 製品輸入比率 = 製品類(SITC5~9類) / 輸入総額 × 100(%)により算出される。

(注4) ただし米国のシェアは約7割、中国は約1割と差が大きい。

[参考] 日中貿易に関する本誌掲載の論文(2002年以降)として次のものがあります。

- ・「60年代以降の日本の対中貿易品目の変遷(その1~輸出)」中村江里子：65号 2006年8月
- ・「日中貿易再考」石川幸一：57号 2004年9月
- ・「中国へ向かう日本の古紙」和田善寛：54号 2003年12月
- ・「日本の輸入構造(相手国)変化 対中輸入VS対米輸入」永田雅啓：52号 2003年5月
- ・「様変わりする日中貿易」今井理之：49号 2002年8月